

# 関西学院大学新聞

2025年12月25日 第871号



■発行■

関西学院大学新聞総部

〒662-0891

西宮市上ヶ原一番町1番155号

HP: www.kgpress.jp

X: @KG\_shinbun

Instagram: kg\_newspaper\_club

## クリスマスツリー点灯式 暖かな夜に光灯す



点灯するクリスマスツリーと時計台＝12月1日、西宮上ヶ原キャンパス、八島みのり撮影

関西学院は12月1日、西宮上ヶ原キャンパスの中庭芝生でクリスマスツリー点灯式を開催した。時計台前のヒマラヤスギが光を灯す瞬間を見届けようと、中央芝生には約2000人が集まつた。会場では無料のキャンドルが配布され、式典の前に観客同士で火を分け合う様子が見られた。

打橋啓史宗教総主事による聖書朗読の後、観客のカウンタダウンに合わせてライトが点灯した。暗夜に美しいクリスマスツリーが浮かび上がり、歓声が上がつた。

高校からの友人と訪れた中尾ゆほびさん（総合政策学部1年）は、「初めて見たのでわくわくした。闇字らしい雰囲気を感じた」とにこやかに語る。

かつた。とても楽しかった

クリスマスツリーは12月25

日まで毎日、午後4時30分から午後10時30分まで点灯す。八島みのり

（八島みのり）



新月祭の様子＝11月2日、西宮上ヶ原キャンパス、田爪翔撮影

関西学院大学祭総部新月祭実行委員会は、11月1日と2日、西宮上ヶ原キャンパスで新月祭を開催した。昨年とは打って変わって両日とも天候に恵まれ、来場者数は2日間で延べ5万人を超えた。これに先立ち行われた神戸三田キャンパスと、西宮聖和キャンパスの来場者を併せる

今年度は、模擬店への出店数が過去最多となつたほか、模擬店グランプリやイルミネーションなどのイベント、さらには、日本の男性5人組ヒップホップグループである、によるラブも行われ、関学生のみならず、老若男女がココロオドルひとときを過ごした。

（山下結大朗）

関連記事は2～3面

## 満月よりも輝く瞬間を

## 新月祭 2025



2, 3面



4, 5面

## 関学生団体が能登の秋祭り参加 能登とのつながりを継ぐ

1993年に公開されたアメリカ合衆国の映画に『クリスマスツリー』がある。ボブ・ブルーで冬季オリンピックに初出場を果たしたジャマイカチームの実話をとに描いたスポーツコメディ映画だ。陸上でオリンピック出場がかなわなかつた4人の青年が、悔しさを晴らすために集まつた即席のチームとかつてボブスレーで金メダルを獲得したアメリカ人コーチがぶつ



関西学院大学の学生11人が9月20日、石川県七尾市豊川地域でボランティア活動を行つた。豊川地域は能登半島地震の被災地で、関学大が学生とともに活動してきた地域の一つ。参加した有志らは災害復興を継続的に支援していくため災害ボランティア団体『rei@y（リレイ）』を立ち上げた。団体名は「繋ぐ」を意味する『rei-a-y』と「関係』を表す『rei-a-y』と『rei-a-y』を組み合わせたものだ。学生たちは現地で開かれた秋祭り「六保祭」に参加した。六保祭は1年の五穀豊穣に感謝する伝統行事で、地域7地区の住民が幟旗やみこしを担いで日吉神社を巡る。学生も住民とともにみこしを担ぎ、太鼓を叩くなどして祭りを盛り上げた。みこしを初めて担

いだ学生は、その重さに驚きながらも楽しんでいた。住民の方は祭りを終えて「学生のみなさんが来てくれたおかげで規模を大きく開催できた」と笑顔で話した。リレイ代表の山川晃生さん（経済学部2年）は、今回で5回目の熊谷訪問だ。山川さんは「地域の方々が温かく迎えてくださり、旗を担がせていただいた時は重さを忘れるほど楽しい時間を過ごせました。これからも継続的に能登を支援できるよう努めたいです」と語った。（田爪翔）



## Mastery for Service 羽ばたけ、世界市民

神戸市営住宅・兵庫県営住宅ほか  
電気設備保全会社 畑中電気合同会社  
〒653-0834  
兵庫県神戸市長田区川西通5丁目107番地の8



かり合いながら猛特訓を重ねていく▼ボブスレーを通じて性格の全く違う4人が、お互いに理解し合い絆を深める中で明らかになる、コーチが現役時代に金メダルを獲得するため犯した不正▼チームは「勝つことは何なのか」という問いを突き付けられる。過去の不正を知つた戸惑いと、笑いにされる現実の中で、強いチームの真似をして張り合うより、自分たちの走りを貴く方が誇られるのではないか。そんな思いがチームの中で芽生えていく。そして、それが「クール・ランニン

が多いたる。▼「結果」だけがすべてに思える時、4人の真っ直ぐな姿は「自分に誇りを持つ」という成功の形を教えてくれる。

# 新月祭2025特集

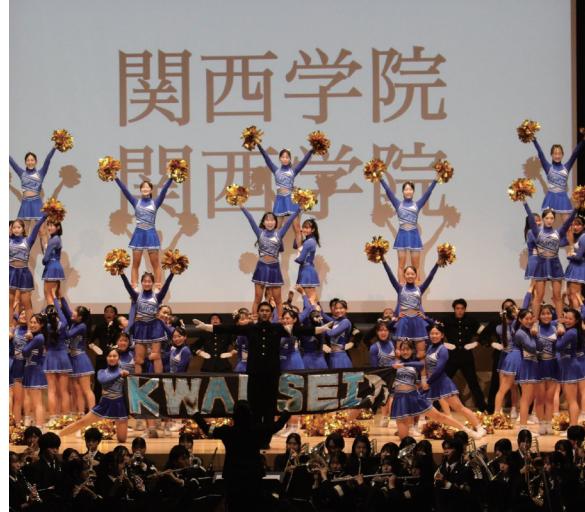
## 2025年応援団総部祭

### 未来へ想いを繋ぐ

関西学院大学応援団総部は11月1日、西宮上ヶ原キャンパス中央講堂で「新月祭2025応援団総部祭」新月旗の下に「遙」と開催した。第79代応援団総部の目標は「遙」という1文字だ。今は「遙」という1文字だ。今

年度の総部祭のテーマである「遙か高みへの飛躍」には、過去から未来へ想いをつなぎ、成長と挑戦を続けるという想いが込められた。

総部祭は、応援団総部を構成する指導部、吹奏楽部、チ



公演する応援団総部=11月1日、西宮上ヶ原キャンパス中央講堂、八島みのり撮影

アリーダー部の3部が揃って演舞・演奏する舞台であり、会場に訪れた多くの人が、2時間40分に及んだ公演を楽しんだ。

応援団総部は、「新月旗のもとに」や「Flight ON Kwansei」などの関学大を象徴する応援歌で会場を盛り上げた。また、新応援歌である「弦月さゆる高台」を披露した。

チアリングオブステージでは、指導部とチアリーダー部の部員が観客の目の前に現れ、いつそう盛り上げた。観客も大きな声で応援歌の「コール」に参加し、会場は一体となつた。

最後は第79代団長渡部裕太

さん（文学部4年）が校歌「空の翼」を指揮し、集大成ふさわしい演舞を見せた。アンコールステージでは、4年生への感謝を伝えるスライドショーを背景に再び応援歌を披露し、今年度の総部祭は幕を開じた。（八島みのり）

### 「青春」を描く！書道部パフォーマンス

新月祭では、書道部による書道パフォーマンスが中庭で披露され、多くの学生が足を止めて見守った。部員たちは袴を着て音楽に合わせ、紙面を移動しながら、十数分かけて今年のテーマである「青春」の作品を書き上げた。中央の淡い桃色と周囲の青い線が目を引き、最後に大きく書かれた「刹那即永劫」の文字が作品を締めくくった。

今回のパフォーマンスには、1年生5人と2年生5人の計10人の部員が出演した。

初めて舞台に立った木村美月

さん（法学部1年）は「練習

が辛い日とか、夜遅くまで練習が続く日もあったけれど

2年生の先輩方のおかげで前

向きに頑張ることができまし

た。本当にこの毎日が私の宝

物です」と振り返った。

パフォーマンスメンバー及

しんだ。

図斎ゼミに所属する学生の

1人は「自分の学んでいる経

済学が社会問題の解決の糸口

となる」と専門演習の魅力を

語った。また、「新月祭は多

く方に経済学の魅力を知つ

てもらう貴重な機会だ。数学

が苦手な方でも楽しめるよう

なゲームを作った」と新月祭

の企画に対する思いを話し

た。（杉谷拓樹）

び指導役として参加した白神凜音さん（法学部2年）は「ほんどの1年生が初めてだったので、どう教えたら良いかすぐ不安だった。けれど、言つたことをみんなすぐ覚えてやつてくれたり、案を出し合つたりして、今まで練習してきました」と述べた。

作品が立ち上がり「刹那即永劫」の文字が姿を見せる、積み重ねてきた練習の成果が伝わり、大学祭の一場面として印象に残るものとなつた。（範沢衆）

家庭で体験会に参加した渡辺くらさん（18）は「最後に答えて気持よかつた」と満足げに話した。くらさんの母親、由紀恵さんは、「やる気なく参加したのに気が付いたら、白熱していた」と笑顔を見せた。

早押しクイズの大会は学生が主催するケースがほとんどが主催するケースがほとんど

クイズサークルQWiCは11月1日と2日、西宮上ヶ原キャンパスで行われた新月祭で早押しクイズ体験会を開催した。両日とも学生グループや子ども連れの家族で賑わった。

アリーダー部の3部が揃って演舞・演奏する舞台であり、会場に訪れた多くの人が、2時間40分に及んだ公演を楽しんだ。

応援団総部は、「新月旗のもとに」や「Flight ON Kwansei」などの関学大を象徴する応援歌で会場を盛り上げた。また、新応

援歌である「弦月さゆる高台」を披露した。

チアリングオブステージでは、指導部とチアリーダー部の部員が観客の目の前に現れ、いつそう盛り上げた。



商品を通じてお客様を笑顔に

長年多くの人に支持された  
きた「あずきバ」や「肉ま  
ん・あんまん」。これらを製  
造する井村屋などを率てに東  
京で、井村屋グループ株式会社  
代表取締役社長（CEO）兼C  
OO）である大西安樹氏にイ  
ンタビューを行った。

### 大学時代

1年目の刑法のゼミと4年の  
民事訴訟法の授業は今でも思  
い出しますね。まあ勉強はし

なかつた部類ですかね。仲間と徹夜で麻雀して、朝一緒に釣りに行つたりはしました。1匹も釣れずに帰りましたけど、理由

業績は前年、その前年のいつ準備をしたかといひふが繋がつてゐる思つてします。例えば新しい工場を作らるといった設備投資が成果として出しあたると思えます。また社員に頑張つていただきながらのものですね。

—2024年度からの始まつた中期計画「Value Innovation 2026」の想こと現状

単年度計画の前に中期計画ところのを策定して、それを毎年、ローリングしながら経

営をしています。今回、中期計画を立てた際には、それ以前に大型投資をしていまいた。よって今回の中期計画は、その投資の成果を表すとともに、その先に向けた成長のための投資ができるよう、財務体質を強固にするターンと捉えていました。1年目に計画した数値は達成しておりました。2年目の上半期も達成しておりますので、ちょうど半分が経ったところですけれど、数字上は達成できています。ただ、残りの半分の期間

――今後の経営の展望については、経営環境が少しが変わつてくるのではないかと捉えているので、1年半後これまでのよう順調に計画を達成できるかは不透明ですね。

A close-up photograph of a pink ice cream bar. The ice cream is a vibrant pink color with visible red cherries. A white chocolate coating is applied to the top and sides, with a thick white chocolate ribbon visible on the right side. The ice cream bar is set against a light-colored, possibly wooden, background.

のあずきバー=井村屋



大西安樹社長＝11月17日、井村屋グループ株式会社本社（三重県津市）、山下結大朗撮影

方  
パーカスという言葉を「存  
知だと思います。この会社は  
何のために存在しているので  
すかということです。私ども  
井村屋グループは「おいし  
い！の笑顔をつくる」という  
パーカスを掲げています。お  
客様に商品を通じて笑顔に

なつていただきたい」という理念です。それに加えて、サステナブルな経営が必要です。企業が営利目的だけではなく、地域環境や地域社会にも配慮しながら、経営していくことが求められています。

—田嶋している企業風土

一 田嶋で言えば、家族的な経営をするといふを目指しています。社員同士が家族のように思える環境にし、その中で、ひとりひとりが自発的に考え動ける会社であればいいと思います。働いていて楽しいなど感じていただけるようにしたいです。

— 人材育成の考え方

教育を担当していたことがありまして、当時考えていたことは、金太郎と桃太郎のお供のような社員になつてもらわれば思つていました。金太郎というのは、金太郎飴のことです。金太郎飴はどうを

ところがソムです。1つのソムを解決しても、他に影響が出でてくるのではないかと考えて、問題を解決するための本質を理解できるようにする研修を行っています。これは他の企業ではない研修プログラムかなと思っています。

「あづきバーの日」として、日本記念日協会に認定していただいている。暑い夏をあづきの健康性を活かした「あづきバー」を食べて、乗り切ってもらいたいという想いで、「井村屋あづきバーの日」を定めました。これを契機に毎年7月1日前後、「あづきバー」



代表商品のあずきバー＝井村屋グループ株式会社提供

のサンプリングを東名阪中心に実施しています。

—「あづきバー」以外の商品

ネクスト「あづきバー」は何だという中で、最近、よう

かんが伸びています。防災用

のようかんやエネルギーを補

給することができる「スポーツようかん」など若い世代の方にも手にとつていただきやすい商品を提供させていただ

いております。また、アイス

クリームにおいては、「やわ

もちアイス」が育つてきてい

ます。中心になる一種類の商

品と季節限定商品を開発して

います。その他にも、あづき

の缶詰で「ゆあづき」とい

う商品が出ているのですけ

ど、こちらも業界の中では

トップのシェアになっており

ます。「やわもちアイス」な

どをスーパーで若い世代に

買つていただいているのを見

ますと嬉しいですね。

—2021年に酒事業に参入

した理由

て、そのときに当社にお声掛けいただきたという経緯です。当社は「肉まん・あんまん」の生地を発酵させる技術はあるのですが、それとは違ったので、新たなプラスの要素として万博に開催されました。そこでライセンス商品を販売したり、イベントを開催したりして、当社の中心的な位置付けであるあづきを来場された皆さんに知つてもらえるようだと思いました。成果として、ライセンス商品の売上げはほぼ計画通りでした。ライセンス商品の認知を高めるイベントには、本当に多くの方々に参加をしていただきました。また、今後のプラスになると思います。

—大学での学びで今に活きて

いるといふ

僕自身の法学科でやつていいことの中で言つて、法学に

は帰納法と演绎法の両方が必

要だと思うのですよ。例え

ば、答えを先に出して、その

網羅しながら一つの結論を導

く。

当時はそういうことは考  
えてなかつたけど、両方とも  
法学科で自然と身につきました。  
それを全部活かしている  
わけではないですよ。そういう  
うような考え方ができるよう  
になつたかなとは思います。

—学生へのメッセージ

のことで、学生時代ででき  
ることはやつてもらいたいで  
すね。学生時代にしかできな  
いことつてあると思います。  
それが何なのか自分を見つ  
けて、それに取り組んでいた  
だけたらいのかななど。社会  
になつたら長い休みがない  
ですからね。

—井村屋について関学生に問  
けて

OBが社長をやつている会  
社だなと思つていただけ  
たらと思います。

(聞き手・仲悠士)

簡単にエネルギー補給ができるスポーツようかんあづき!!井村屋グループ株式会社提供



やわもちアイスバー!!井村屋グループ株式会社提供

大西社長経歴  
会社概要はこちら



# こだわりの ゴールドシリーズ

2入ゴールドピザまん

2入ゴールド肉まん

2入ゴールドあんまん

徹底的に追求したクオリティ  
**ゴールドバリュー**  
GOLD VALUE

厳選素材

こだわりぬいた

上質な原料

独自配合

素材のおいしさを

引き出す配合

特色技術

おいしさを生み出す

ひと手間かけた製法

おいしい!の笑顔をつくる  
**井村屋グループ**

# 100年以上の歴史を紡ぐ だより 絵画部弦月会

絵画部弦月会は大正4年から続く歴史のある部活だ。数多くの画家やデザイナーを輩出した一方で、絵画技術を指導する教員はいない。部員同士で技術を共有し、意見交換をすることで、技術を磨いていっているのだ。

活動のほとんどはギャンバスに出迎えられる。色鮮やかで個性的な作品の数々は、どれも魅力的で甲乙つけがたい。天井は高く、窓から差し込む日光が幻想的だ。

の歴史を紡ぐ  
ができる。部員やOBとの交  
流を通じて、絵画の面白がり

ができる。部員やOBとの交流を通じて、絵画の面白さを樂しさに気付くことができた」と語った。大学生からの絵画制作を始める部員も多く、米田さんもその一人だ。

油絵やアクリル画、デジタル画にこだわる多種多様な作

信作だ。「観者が温かみを感じられるような作品を目指して。また、この作品に使つたキャンバス120号は高さが2メートル近くある。制作中に多くの苦労や試行錯誤を経験しながらしても楽しい時間だった」と優良さんは振り返る。

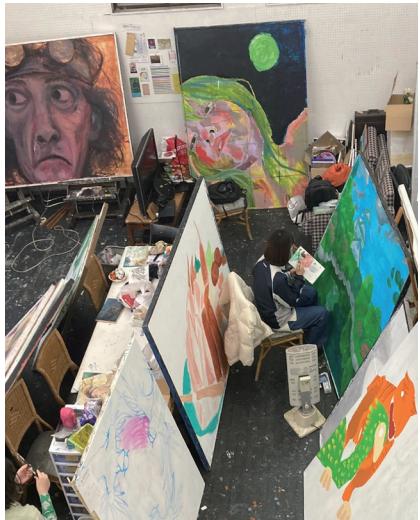
12月には弦月会と「展覧会を開催する。部員は準備に大忙しだ。思ひのこもつた作品を鑑賞する」ことのできる貴重な経験だ。(杉谷石樹)

ラクロス部女子立教大に勝利し決勝進出  
7年ぶりの日本一を目指す

うで、実際には存在しないハイザマの空間を描いた。懐かしさと不気味さの両方を感じさせるような作品を目指したと説明した。

「うどん温泉」は小松優良さん（社会学部3年）の自

A photograph of a dark, metallic staircase with a handrail and a glass partition.



絵画部弦月会アトリエ(左)=杉谷拓樹撮影、Liminal Space(右上)=小松心優きり提供、うべぐ温泉(右下)=小松優良きり提供

ポーターが選手に声援を送つた。その応援を力に、関学大は序盤から猛攻を見せた。関学大はアタック（AT）の井出歩未選手（人間福祉学部4年）が先制点を挙げ第1クオーターを4対0でリードし流れを掴んだ。第2クオーターでも2点を追加し、6対0でハーフタイムを迎えた。関学大はゴーリー（G）の鶴長紗耶選手（教育学部4

4得点を挙げた井出選手は、「1対1というところを常に練習でもつだつてましたので、それが本番で發揮できて良かつたと思います」と語った。また、決勝戦に向け「決勝で絶対に勝ち、日本」という形で、今まで支えてくださった全ての方々に恩返ししたいと思います」と言葉込んだ。(仲條士)

# ファイターズ関西学生リーグ 制覇

## 昨年優勝立命館大を破る

A group of football players in white uniforms with blue and yellow accents, including the number 89 and 1, standing on a field. The uniforms feature the word "FIGHTERS" and a "K" logo. One player in the center is pointing upwards.

タッナタウンを決めて喜ぶ選手ら＝11  
9日、万博記念競技場、八島みのり撮影

ボール部ファイターズは11月9日、万博記念競技場（大阪府吹田市）で行われた関西学生アメリカンフットボールリーグ第7戦に出場した。試合前はリーグ内順位2位であつた関学大は1位につけている立命館大学と対戦。24対3で直接対決を制し、6勝1分、5年連続62回目のリーグ優勝を果たした。

今回の勝利により、関学大は関西1位として全日本大学選手権に進出し、23年以来の王座奪還を目指す。

試合は立命館大の攻撃で開始した。ファイターズのディフェンスラインは陣地を堅実に守り、少ないプレーで攻守を切り替えた。しかし、立命館大側も一歩も譲らず互いに動きのないまま第1クォーター（Q）を終えた。

膠着状態が続く第2Q終了間際、攻撃権の回ってきたファイターズが勝負に出た。クオーターバック（QB）の星野太吾選手（社会学部2年）を起点にパスを回し、フィールドゴール（FG）圏まで陣地を進める。続いてキックア

の大西悠太選手（社）年がFGを決め3年半終。  
この得点から流れターズに傾いたのか序盤からダウンをはけ相手ゴール11ヤードを広げる。勢いはそのまま畠野選手抜け、最初のタップ（TD）に成功、10対ドを広げる。勢いは5分後にはランニング（RB）永井秀選手（部2年）が36ヤードランキックも決まり第4Q終盤も攻撃をめることなく、星野慶目のTD、守備にても完璧に近く、リーグ試合中最少失点た。前年王者を破りづいたチームで全国に向かう。

がファイ  
、第3Q  
更新し続  
ドまで迫  
手が駆け  
チダウン  
Oにリー  
止まりず  
グバック  
（社会學  
のTDR  
17対0。  
の手を緩  
選手が2  
目を向け  
1グ戦計  
で勝利し  
完成に近  
の舞台へ  
和輝監督  
シユート  
まれてい  
の良さを  
つている  
いうとま  
う感じ」  
を見据え  
日本一貴

学部2年)が自ら右サイドを抜ける53ヤードの独走TDを決め、17対0と一気に流れをつかんだ。第2Qも攻撃の手を緩めなかつた。QB星野選手からのパスをワイドレシーバー(WR)五十嵐太郎選手(経済学部4年)がエンドゾーンでキャッチしてTD。守備陣も関大オフェンスを圧倒し、24対0で前半を折り返した。

# ファイターズ 52-7で 関西大に勝利

後半もファイターズが主導権を握り続けた。第3QにはWR白田真悟選手（国際学部3年）がQB星野選手からのロングパスを受けてTD。第4Qにはランニングバック（RB）平野日々輝選手（商学部2年）、RB永井秀選手（社会学部2年）のインターセプト。

そして終盤にもDB増田有亮選手（商学部1年）のインターセプトTDを含め、計4本を積み重ねた。関西大には途中で1本のTDを許したものの、試合全体を通して危なげない内容だった。

バスとランで3TDを奪い勝利に貢献した星野選手は、「ディフェンスが今日も流れをつくってくれた」と守備陣に感謝し、「細かな部分を詰め続けてきた積み重ねが、今このチームの強さ」と語った。

決勝の甲子園ボウルは立命館大学との対戦。星野選手は「前回の勝敗は関係ない。自分たちのフットボールをやりきるだけ」と静かに闘志を燃やした。（田爪翔）



後半もファイターズが主導権を握り続けた。第3QにはWR百田真樹選手（国際学部3年）がQB星野選手からのロングパスを受けてTD。第4Qにはランニングバック（RB）平野日々輝選手（商学部2年）、RB永井秀選手（社会学部2年）のインターセプト。

そして終盤にもDB増田有亮選手（商学部1年）のインターセプトTDを加え、計4本を積み重ねた。関西大には途中で1本のTDを許したものの、試合全体を通して危なげない内容だった。

パス&ランで2TDを奪い勝利に貢献した星野選手は「ディフェンスが今日も流れをつくってくれた」と守備陣に感謝し、「細かな部分を詰めて続けてきた積み重ねが、会員のチームの強さ」と語った。

決勝の甲子園ボールは立命館大学との対戦。星野選手は「前回の勝敗は関係ない。自分たちのフットボールをやりきるだけ」と静かに闘志を燃やした。

（田川翔）





社会学部の中谷文美教授は文化人類学を研究している。文化人類学は、文化を比較して人間の多様性と普遍性を研究する学問だ。中谷教授は文化人類学を「合わせ鏡」に例え、「他者の当たり前を知ることで、跳ね返って自分を理解するもの」と語った。

上智大学を卒業後、京葉教育文化センターで3年間務め、オックスフォード大学に留学した。京葉教育文化センターは東南アジアの国々との草の根交流を図る団体だ。通訳として働くうちに、現地の文化や習慣をじかに知りたいと考えるようになり、オックスフォード大学で文化人類学を学ぶことを決意した。

中谷教授は現地調査を言む7年間の留学生活を「大学院に進学する前に働いた経験があつたからこそ、学びたい理由がはつきりしていた。学びが当たり前じゃないことを感じた」と振り返った。

研究対象は、文化人類学、ファッショニズム文化、ジェンダー論など幅広い。現在はオ

ランダの高齢者ケアとワークライフバランスについて、現地でのフィールドワークを行っている。

中谷教授は現地調査を言む7年間の留学生活を「大学院に進学する前に働いた経験があつたからこそ、学びたい理由がはつきりしていた。学びが当たり前じゃないことを感じた」と振り返った。

研究対象は、文化人類学、ファッショニズム文化、ジェン

ダーランダの高齢者ケアとワークライフバランスについて、現地でのフィールドワークを行っている。

中谷教授は現地調査を言む7年間の留学生活を「大学院に進学する前に働いた経験があつたからこそ、学びたい理由がはつきりしていた。学びが当たり前じゃないことを感じた」と振り返った。

研究対象は、文化人類学、ファッショニズム文化、ジェン

ダーランダの高齢者ケアとワークライフバランスについて、現地でのフィールドワークを行っている。

中谷教授は現地調査を言む7年間の留学生活を「大学院に進学する前に働いた経験があつたからこそ、学びたい理由がはつきりしていた。学びが当たり前じゃないことを感じた」と振り返った。

研究対象は、文化人類学、ファッショニズム文化、ジェン

ダーランダの高齢者ケアとワークライフバランスについて、現地でのフィールドワークを行っている。

中谷教授は現地調査を言む7年間の留学生活を「大学院に進学する前に働いた経験があつたからこそ、学びたい理由がはつきりしていた。学びが当たり前じゃないことを感じた」と振り返った。

研究対象は、文化人類学、ファッショニズム文化、ジェン

## 社会学部 金菱ゼミ 震災の記録プロジェクト出版報告会

「震災とトラウマについて多くの人に知ってほしい」という思いを背景に、大災害によつて生じるトラウマを個人の主体的な生き方の物語として捉え直す、「相対的トラウマ」という新しい視点を提示している。

金菱ゼミは今年で2年目だ。「ファッショニズム、装い」を共通テーマに定め、日常生活中では出会わないものに触れるための学外エクスカーションを定期的に催している。中谷教授は自身の経験から、言葉が通じると見える景色が変わると主張し、言語を学ぶことの大切さを強調した。

中谷ゼミは今年で2年目だ。「ファッショニズム、装い」を共通テーマに定め、日常生活中では出会わないものに触れるための学外エクスカーションを定期的に催している。中谷教授は自身の経験から、言葉が通じると見える景色が変わると主張し、言語を学ぶことの大切さを強調した。

中谷ゼミは今年で2年目だ。「ファッショニズム、装い」を共通テーマに定め、日常生活中では出会わないものに触れるための学外エクスカーションを定期的に催している。中谷教授は自身の経験から、言葉が通じると見える景色が変わると主張し、言語を学ぶことの大切さを強調した。



金菱ゼミ出版報告会 12月2日  
日 久保田創士撮影

社会学部の金菱ゼミは12月2日、ゼミ生が被災者に聞き取りをしてまとめた書籍『大災害と相対的トラウマ』出来事がいかにその人に生きられたのか』(ナカニシヤ出版、2025年)の出版報告会を行つた。

本書は、ゼミ生が1年以上かけて行つたフィールドワークの成果をまとめたものだ。会を行つた。

報告会では、学生たちが実際に聞いた当事者の生の声や、エピソードから得られた知識が紹介された。能登半島地震の被災者を対象に調査をした下山直誠さん(社会学部4年)は、「相対的トラウマは、震災による生活の小さな変化などが積み

重なつたもので、絶対的トラ

ウマよりも引き起されやす

い。そのため、トラウマの核

は、相対的トラウマに着目す

ることで見えてくるのではな

いか」と述べた。

金菱教授は、学生に「ブ

ラック・スワンを探すよう

に」と助言をしてきた。うつ

に「たつた一羽でも黒い白鳥を

発見できれば、白鳥の概念そ

のものが変わることになる。

トラウマはこういうものだ、

と思い込んでいるものとは異

なる側面が、フィールドワー

クを通して見えてくる」と語

る。

さらに、「トラウマに限ら

ず、これから的人生を歩む上

で違う視点で物事を見ること

は重要だ」と既成概念を問

い。

社会が点を語るとき、人は

線を生きている。このそれに

こそ、声にならない痛みが潜

んでいる。本書は、震災から

生きる人だけではなく、震災と

直す姿勢の大切さを語った。

震災とトラウマについて多くの人に知ってほしい」とい

う思いを背景に、大災害によつて生じるトラウマを個人

の主体的な生き方の物語とし

て捉え直す、「相対的トラウ

マ」という新しい視点を提示

している。

報告会では、学生たちが実

際には、学生たちが実

